

2019年6月10日

報道関係各位

大手町・丸の内・有楽町ドライ型ミスト実行委員会
三菱地所株式会社
三菱地所プロパティマネジメント株式会社

一丸の内仲通りとその周辺が、夏の猛暑を緩和する“ミストの森”に— 井水浄化設備を活用した総延長 927m の「ドライ型ミスト」を設置

大手町・丸の内・有楽町ドライ型ミスト実行委員会※1、三菱地所株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社は、大手町・丸の内・有楽町地区（丸の内エリア）において、2019年6月13日（木）～2019年8月31日（土）の計80日間、環境に配慮しながら暑さへの対策を講じることを目的として、井水を活用した総延長 927m※2の「ドライ型ミスト」を三菱地所グループとして初めて、同エリア一帯に設置します。

「ドライ型ミスト」を活用した取り組みとしては、2018年夏に丸の内ビル及び丸の内パークビル前歩道（各約100m）にて実証実験を実施しており、その結果、冷却効果を確認できたこと、またエリア内就業者や来街者から総じて好評であったことを踏まえ、今般実施範囲を丸の内仲通り沿いの街路樹や東京国際フォーラム（対象物件14棟）まで拡張するものです。

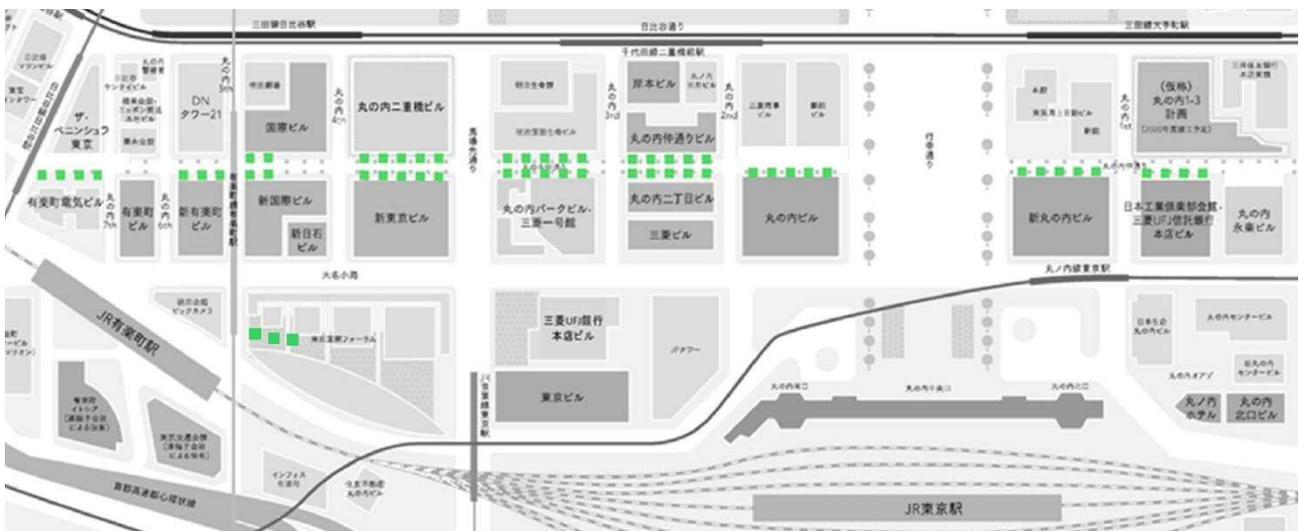
※1 本件にエリア一体で取り組むことを目的として組成された実行委員会。
※2 実施計画を基に集計。

本装置から噴射するミスト用の水源は、濁水が懸念される夏場であることを考慮し、井戸があるビルについては丸の内の地下100m以上から汲み上げる井戸水を飲料水の基準までろ過した上で活用します。今回整備した井水浄化設備は、非常時の飲料水確保にも役立つため、安全・安心・快適な街づくりを目指す同エリアでのBCP強化に寄与します。



▲2018年度 実証実験時の様子

丸の内エリアでは、今後も快適な都市空間を目指した取り組みを拡大し、環境に配慮した更なるスマートシティの推進を図ってまいります。



■今回設置する「ドライ型ミスト」について

(1) 総延長 927m のミスト装置

- ・「ドライ型ミスト」は、わずかなエネルギーで微細な霧を発生させ、その気化熱により周辺外気を冷却する技術です。2018 年度実証実験時には、本装置を設置したことで 2℃～3℃の体感温度低下の実績が確認されています。
- ・今回、昨年の実証実験での検証結果を踏まえ、実施範囲を前回の丸の内ビル及び丸の内パークビル前歩道（各約 100m）から丸の内仲通り沿いの街路樹や東京国際フォーラム（対象物件 14 棟）まで拡張し、丸の内エリア初となる総延長 927m の「ドライ型ミスト」を同エリア一帯に設置します。

(2) 地域で使用する水を地域で調達する、井水浄化設備の構築

- ・井戸はこれまで、一部のビルには設置されていたものの、防災用として緊急対策時のみでの使用に限られていたり、使用される機会がほとんどありませんでした。今回それらの井戸を再整備し、井水を水源とすることで“地域で使用する水を地域で調達”し、未利用資源の有効活用を推進します。また、貴重な水道水への依存度を可能な限り下げることによって夏季に懸念される湯水問題に対しても配慮しております。
- ・再整備した井戸より汲み上げた水は、海水の淡水化や超純水の製造で採用されている高性能フィルターを組み込んだろ過装置により、飲料水同等の水質にすることが可能です。
- ・この井水を飲料化するシステムは、非常用電源においても稼働させることが可能で、今回の「ドライ型ミスト」装置の水源だけではなく、災害・断水時における飲料水の確保にも寄与します。
- ・対象ビルは、丸の内ビル、丸の内パークビル、新東京ビル、国際ビル、新国際ビルの計 5 棟です。

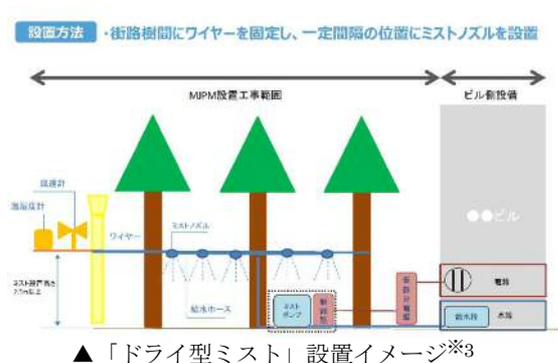
(3) 街路樹設置型で仮設式のため、簡易に取り付けが可能

- ・本設備は、街路樹間に、給水ホースとミストヘッドが設置されたワイヤーを渡し、地上に設置されたミストポンプにより上水*1を微細ミスト化。ワイヤー端部に設置された温度計・湿度計・風速計が一定条件を満たす時のみ自動運転する仕組み*2です（暑い時のみ運転し、雨天時や、気温が低い際は自動停止）。

※1 丸の内ビル、丸の内パークビル、新東京ビル、国際ビル、新国際ビル前は、井戸水を上水レベル迄の上活用。

※2 三菱地所・三菱地所設計・いけうち・ドゥサイエンス・三菱地所プロパティマネジメントにて共同計画した実施モデルです。

※3 東京国際フォーラムのみ、イメージと異なる設置方式を採用予定です。



■「ドライ型ミスト」実施概要

実施期間：2019年6月13日（木）～2019年8月31日（土）の計80日間（予定）

運転時間：期間中10:00～17:00（毎日）※気温・湿度・風速等一定の気象条件が整った時のみ自動運転。

実施趣旨：丸の内仲通りにてドライ型ミスト事業を実施することにより、

夏の酷暑を乗り切るための快適な都市空間を創出。

設置場所：丸の内仲通り沿い街路樹、東京国際フォーラム（対象物件 14 棟）

※東京国際フォーラムは、別日程となります（2019年7月～9月の3カ月間を予定）。

主催：大手町・丸の内・有楽町ドライ型ミスト実行委員会

<実行委員会構成員>

三菱地所株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社、

一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会、

一般社団法人丸の内環境共生型まちづくり推進協会

<協賛・協力>

株式会社東京国際フォーラム、明治安田生命保険相互会社、

日本オープンエンド不動産投資法人、一般社団法人日本電気協会、

ジャパンリアルエステイト投資法人、東宝株式会社、東光建物株式会社、東京都交通局、

東京商工会議所、株式会社東京會館、三菱UFJ信託銀行株式会社、

一般社団法人日本工業倶楽部、一般社団法人生命保険協会、一般社団法人日本交通協会

企画制作：三菱地所株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社

後援：千代田区

【ご参考】

2015年3月19日に東京圏で初めて丸の内仲通り等[※]が国家戦略特区における「国家戦略道路占用事業」として指定され、道路法の特例が受けられる区域となったことで、エリアマネジメント団体による道路空間を活用したイベントなどの開催へ向けた手続きが円滑化されました。

これは、『歩道の拡幅および、歩道の広さを活用した、樹木や屋外彫刻作品設置による豊かな歩行者環境の創出』、『街並みの景観コントロールやデザインマニュアルによる街全体の統一感の実現』、『打ち水・盆踊りやイルミネーションといった季節に応じたイベントの開催による街の賑わいの創出。キッチンカーやオープンカフェの実施による道路空間の活用推進』といったエリアマネジメントの実績が評価されたものです。

さらに2018年には、「道路空間活用のご案内」を大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり懇談会で発行。NPO 法人大丸有エリアマネジメント協会（通称：リガーレ）を担い手として、道路空間活用が本格化してきています。

丸の内では、今後もビジネスエリアとしての価値を高めながら、交流空間として一層活用していくことで、丸の内仲通りを中心に賑わい創出と都市観光化を推進し、東京の魅力ある街づくりに貢献します。

※行幸通り（地下を含む）・大手町川端緑道・東京駅丸の内地下広場と一体で指定。



▲国家戦略特区に指定された丸の内仲通りの様子

○参考情報：丸の内エリアのコンセプトワードについて

Dynamic Harmony

Tokyo Marunouchi

「Dynamic Harmony」は、丸の内エリア（大手町・丸の内・有楽町・常盤橋地区）のまちづくりコンセプト「Open」「Interactive」「Network」「Diversity」「Sustainable」をベースにした、丸の内エリアの多様なあり方を表現したワードです。「あらゆるものをダイナミックに調和させ、新たな価値を生み出す街」丸の内。それは、私たち三菱地所が世界に発信する街のあり方です。